

部活で 新たな一歩!!

高校からでも遅くない 何かに挑戦するとき

青春の1ページを彩る部活動。いなべ総合学園高等学校にも魅力のある部活がたくさんあり、多くの生徒が活動に励んでいます。仲間と共に成長し、目標に向かって頑張る日々。それは大切な思い出の1ページになります。

春が訪れると、入学の季節。

今回はいなべ総合学園で、高校から取り組み始めた部員が多い部活をいくつか紹介します。



そもそも部活の 意味って?

部活での指導方法や教員への負担などさまざまな問題が懸念されるなか、三重県では「三重県部活動ガイドライン」(2018年3月)をまとめました。

その中で部活とは「個人や集団としての目的や目標を持ち、切磋琢磨することを通して、体力の向上や人間関係の大切さなどを学ぶことができる活動」としています。また活動の成果を求めること以上に、生徒が意欲的に参加できる環境づくりが必要だとし、様々な挑戦への後押しになればと進めています。

いなべ総合学園には運動部と文化部あわせて、28部活と2同好会があります。全国大会に出場したり、日本代表やプロ選手を輩出したりと、めざましい成果を残している部活もたくさんあります。

主な各部活の活躍 (全国大会)

- レスリング部
 - 全日本ジュニアレスリング選手権大会
男子カデットの部フリー 65kg 級
第2位 太田 匠海
 - 国民体育大会レスリング競技少年男子
フリー 65kg 級 第2位 徳力 貫太
その他、全国大会で入賞3人
- 山岳スキー部
 - 全国高等学校総合体育大会 4人出場
- 書道部
 - 全国高等学校総合文化祭 特別賞 佐藤 澄佳
出品 中西 紗弥加
- 美術部
 - 全国高等学校総合文化祭 出展 千種 風香
- ゴルフ部
 - 全国高等学校総合体育大会 4人出場
 - 国民体育大会 2人出場

いなべ総合学園の部活

●運動部

- ・剣道部
- ・サッカー部
- ・ソフトテニス部
- ・卓球部
- ・バドミントン部
- ・陸上競技部
- ・ゴルフ部
- ・水泳部
- ・ハンドボール部
- ・硬式野球部
- ・山岳スキー部
- ・ソフトボール部
- ・テニス部
- ・バレーボール部
- ・レスリング部
- ・体操部
- ・バスケットボール部

●同好会

- ・調理同好会
- ・チアリーダー同好会

●文化部

- ・イラスト部
- ・茶道部
- ・吹奏楽部
- ・ボランティア部
- ・コンピュータ部
- ・書道部
- ・演劇部
- ・自然科学部
- ・美術部
- ・ライセンス部
- ・放送部



高校生になると「何もしていない」が増える!?

中学校から高校に進学すると生徒が部活に入る割合が減ります。

三重県では、部活への加入率は全国平均より上回っていますが、中学校から高校に入ると10人に1人は部活を辞めています。

Q. 部活に入っている割合 単位:%

	公立中学校	県立高等学校
運動部	74.9 (68.4)	50.7 (54.9)
文化部	19.2 (19.9)	32.6 (-)
合計	94.1	83.3

県内の部活動への加入状況 (2017年度)
県教育委員会事務局保健体育課調べ
※ () は 2016年度全国平均 (スポーツ庁)

少子化だけど部活は維持?

少子化のため全国的に生徒数が減少していますが、部活に取り組む生徒数に大きな変化はありません。

	三重県の部員数
2009年度	18,825人
2018年度	20,061人

全国高等学校体育連盟 加盟状況 (全日制+定通制)

また女子スポーツ選手の活躍が話題にあがるようになり、高校の部活に影響が出ています。

女子のレスリング、自転車、ウエイトリフティングは2009年度には「集計なし」だったのが、現在は全国に約100校ずつ。女子サッカーは大きく登録人数が増え、三重県では2倍近くになりました。

仲間がつなぐその一球で高く跳べ！

相手の壁を崩すため、いくつもの作戦を駆使してパスをつなぐ。イメージ通りいけば、もうゴールは目の前。あとは気持ちを球に込めるだけ。



ハンドボール部

2、3年前まで県内で何回か勝てれば良いほうだったハンドボール部。中学の経験者が実力校に集まる中、いなべ総合学園は高校から始めた選手が多く所属しています。試合では接触が激しいことから、当初は怖かったと話す選手もいます。

それでもハンドボールに夢中になったのは、仲間とパスをつないでゴールへ向かう楽しさがあったか

ら。「一人が強くても勝てない」と選手は話します。

毎日攻撃のフォーメーションを繰り返して、プロや日本代表の映像を見て研究を重ねてきました。日々の努力は実を結び、2018年は男子が初のインターハイ出場。女子が初めて東海大会へ進むなど、結果を残してきました。2021年には三重県で国体が開催され、いなべ市がハンドボール少年男子の会場となります。今年の4月に入部する選手は、国体のとき3年生になる世代。国体出場の可能性があります。

ハンドボール部はチーム全体でさらなる飛躍を目指しています。



実績 (2018年度)

●男子

三重県高等学校総合体育大会 準優勝

全国高等学校総合体育大会 (インターハイ) 出場

●女子

東海高等学校選手権大会三重県予選会 準優勝

2月3日 (日) ~ 東海高等学校ハンドボール選手権大会 出場



1.3. 今や男子は県内トップクラスの実力に成長 2.4.7 女子は1点差を争う好ゲームを制し、その勢いのまま準優勝 5. 試合中も声をかけあってプレーを確認 6. ベンチや監督も一緒になって試合に臨む (12月24日~27日 東海高等学校選手権大会三重県予選会の様子)



怖さを越えた先の自分

やってみたい技をイメージする。でも初めての挑戦はやっぱり怖い。その怖さを越えたとき、現実とイメージの自分が一つになる。

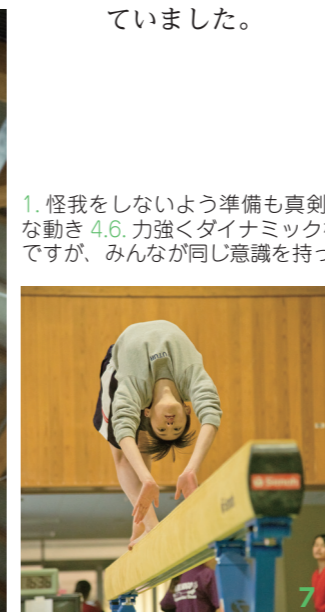
体操競技部

顧問の寺崎雪子先生によると「体操は宙返りなど日ごろの運動では経験することのない体の使い方をする特殊なスポーツ」。言葉を聞くと難しそうに感じますが、部員の多くが体操初心者です。

体操の魅力を多くの人に伝えたいと、部活紹介では初心者でも技ができるようになることをアピールしてきました。10年前には男女合わせて10人ほどだった部活も、今では3学年で34人が所属しています。

上達のために大切なことは練習を積み重ねること、恐怖や痛みを乗り越えること。動画で撮影しながら一つ一つの動作を修正していき、その繰り返しで技を習得します。部員同士で技のこつを教えたり、アドバイスを送ったりする姿が見られました。

体操をしていて一番楽しいときを尋ねると、みんなの答えは揃って「新しい技が出来たとき」。努力が形になる競技。日々積み重ねたものにしか見られない景色が体育館に広がっていました。



1. 怪我をしないよう準備も真剣に 2.3.5.7. 素早く軽やかな動き 4.6. 力強くダイナミックな演技を披露 8. 個人競技ですが、みんなが同じ意識を持って取り組んでいます



仲間と共に掴み取る未来

試験本番は1人。でも一緒に頑張ってきた仲間が応援してくれるから大丈夫。

内定先 (2018年度)

- 国家公務員一般職
- 三重県警察官
- いなべ市職員
- 桑名市消防士
- 四日市市消防士
- 愛西市消防士
- 自衛隊 (一般曹候補生)



ライセンス部

2018年4月に測量部から名前を変えて発足した、一番新しい部活がライセンス部です。官公庁・警察・消防など、公務員を志望する生徒が試験や面接の対策、資格の取得に向けて活動しています。

部員は、進路希望で公務員と書いた生徒に対して、顧問の水谷真人先生が声を掛けて集めています。他の部活と兼部している生徒が多数を占めています。

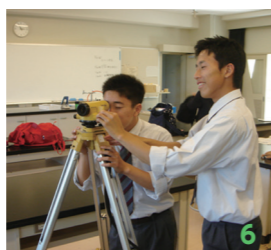
主な活動は一緒に試験勉強をしたり、実力テストを定期的に取り組んだりすることです。

勉強であれば個人でも続けていけると思いますが、部活に入る大きな意味があります。それは同じ夢に向かう仲間とのつながりです。「夢を理解して応援してくれる人が身近

にいる」。それは何ものにも代えがたいエネルギーになると部員たちは話します。

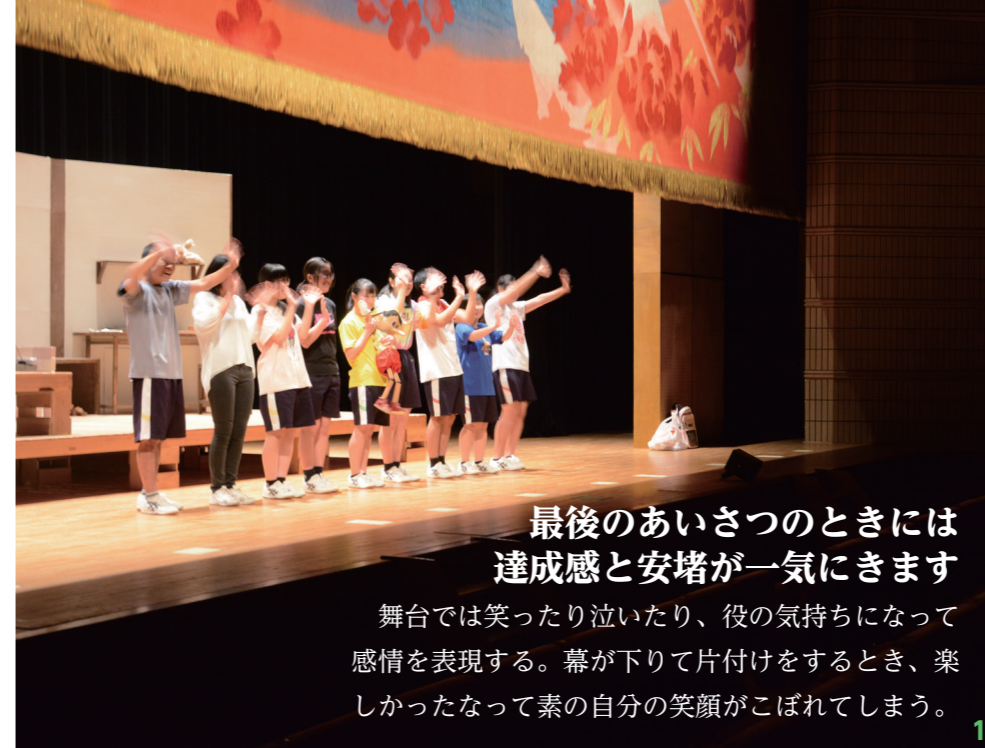
ライセンス部は、高校生活3年間を充実したものにするだけでなく、これからの未来を仲間と一緒に切り拓く。生徒たちの夢を輝かせる部活です。

- 1. 初代部長の石橋咲来さん。音大から自衛隊へ夢が変わり無事合格
- 2,3. 学校生活でも仲が良い
- 4. 進路指導も担当している水谷先生。生徒にさまざまな情報や機会を提供する
- 5,7. 実力テストは1問でも多く回答できるように真剣
- 6. 危険物取扱者や英検、測量に関する資格の取得にも挑戦



いなぶんフェスタ

2018年12月8・9日の2日間、文化部の合同発表会である「いなぶんフェスタ」が開かれました。展示作品や舞台発表はもちろん、イベントポスター作製を美術部、舞台進行を放送部が行うなど、生徒たちで作り上げた催しになりました。



最後のあいさつのときには達成感と安堵が一気にきます

舞台では笑ったり泣いたり、役の気持ちになって感情を表現する。幕が下りて片付けをするとき、楽しかったなって素の自分の笑顔がこぼれてしまう。



1,2,3. 中部大会出場の「Liar Liar ～はなの演劇部～」4,5,6. 演者・裏方それぞれが役割をこなし、1本の劇の精度を高めていく7. 部活の合間も和やかな雰囲気

演劇部

今年度7年ぶりに県大会を突破し、中部大会に出場した演劇部。

大会や学校行事など1年通して発表の場があり、毎日練習に取り組んでいます。

演劇部のある中学校は少なく、部員のほとんどは高校から演劇を始めました。入部を決めたきっかけを聞くと、多くが「入学したときの部活紹介で先輩の演技を見て」と話していました。「先輩がかっこよくて憧れて」。そのつながりがずっと続いています。

演者はシーンごとに意見を出しあって反省点を修正。せりふがない演者の動きにもアドバイスを送ります。また照明や音響などの裏方は演技に彩りを加えるため、何度も打ち合わせを重ねていました。

ホールには学年を超えて笑いあう仲の良さと、演劇にひた向きに取り組む部員の姿がありました。

演劇のせりふや動作には正解がありません。仲間と何度も意見を交わしながら、自分たちなりの正解を見つけていきます。これを3年間続けていると、自然にコミュニケーション能力が高まるそうです。人生の舞台上で輝ける人材を育てていく、それが演劇部の魅力なのかもしれません。



実績

第63回三重県高等学校演劇大会・県大会
最優秀賞(三重県知事賞)
創作脚本賞 舞台美術賞

第71回中部日本高等学校演劇大会出場

いなべ総合学園高等学校では毎年秋に学校見学を実施しているほか、ホームページで学校情報を発信しています。詳しくはお問い合わせください。

〒三重県いなべ総合学園高等学校

T 74-2006 F 74-4104

H <http://www.inabe-h.ed.jp>

